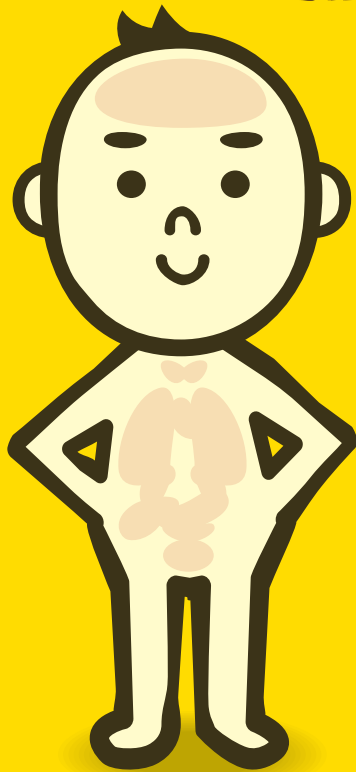




# 喀痰の検査で わかること

血液、尿などの臨床検査



jpclt.org

臨床検査振興協議会  
Japanese Promotion Council for Laboratory Testing

## 喀痰（かたん）の検査とは

痰を採取してその中に病的な細胞や成分、あるいは細菌などが含まれていないかなどを顕微鏡で観察します。

この検査は、呼吸器の病気の診断には不可欠です。痰は呼吸器系の粘膜から分泌される粘液で、その中には、肺や気管支、咽喉・喉頭等などの気道からはがれた細胞が含まれます。

これらの細胞に異常があったり、細菌、ウイルス、血液成分などが混じっていたりすると、痰に変化があらわれます。

すなわち痰を調べれば、肺や気管支などの呼吸器の異常を知ることができるのです。

## 喀痰を採るときの注意点



喀痰を採る前には、うがいをしてね  
口の中の雑菌や細胞が混じることを防  
ぐためです。

痰は渡された容器に直接出してください。

ティッシュ等の紙でとらないでください。  
(紙に痰が吸い取られて検査できません。)



## 喀痰を用いた検査には何があるの？

喀痰を用いた検査には以下の2つがあります。

### ①細菌検査 ②細胞診検査

#### ①細菌検査

肺炎や気管支炎の原因になっている細菌や真菌(カビ)などを見つけます。この検査には2つあります。

1つは採取した痰をガラス板に塗りつけて、顕微鏡で菌を見つける検査です。

もう1つは培養で菌を増やし、菌の種類を確認する検査です。普通の菌の培養には2~3日、結核菌は2ヶ月ほどかかります。

#### ■痰のなかに菌が見つかったらどうする？

喀痰の細菌検査では、感染症の原因となる菌が見つければ、その菌に効く薬はどれかを試験して、治療薬の決定に役立てます。



#### ②細胞の検査(細胞診)

痰に混じった細胞を顕微鏡で調べ、がん細胞や炎症、アレルギー等を疑わせる細胞がないかどうか調べる検査です。

痰を調べる代わりにブラッシングといって、気管支内視鏡を入れて粘膜を擦り取り、それを顕微鏡で調べることもあります。また気管支内を水で洗ってこれを集めて検査することもあります。

#### ■痰にまじった細胞の何をみるの？

- ① 顕微鏡で細胞をみて、悪性の疑わしさの程度によって5段階に分類します。
- ② 悪性の疑わしさが高い(がん細胞が疑われた)ときは、CTや超音波検査などの画像診断を含む精密検査へと進み、それらの結果から総合的に診断されます。

